



北海道にふさわしい新たな観光の創造戦略を!

健康に良い美味い食材の中から機能性物質を見つけ出し、北海道の新たな健康バイオの発展を目指す「知的クラスタープロジェクト、バイオS」の会議が3月19日札幌パークホテルで開かれた。日経BP社の宮田満の司会で行われたパネルディスカッションで、多くのパネラーは「このプロジェクトが将来ビジネスとして北海道の活性化に結びつくかは、まず戦略ありきである」と強調した。

宮田氏は健康産業と医薬産業のみが年々売り上げを伸ばしてきている市場であり、健康産業は北海道のニュービジネスに適している」と述べた。しかし、そのためには、株式会社による農業経営や流通などを含み、思い切った戦略、政策を北海道が道州特区で打ち出す必要がある事を強調した。確かに、小生もこのプロジェクトのメンバーとして地域の仲間と医学的根拠で付加価値をつけ「1個100円のもの」を120円にでもして、汗水流した農家の方々にメリットを返してあげたい」と願う努力しているにも関わらず、最終的には我々から情報を得た大手企業が、付加価値のついた道産品を安く買い占め、製品化してしまう。これでは、何のために産学連携体制の中で道産品に付加価値をつける努力をしているのだろうか?と空しい思いだけが残る。産学官連携で付加価値をつけ、消費者に見えぬ形で食の安心、安全を担保し、食材そのもの、あるいは道産品から見

いだされた新たな機能性物質を含んだ加工製品を、道内から全国に流通させる仕組みをつくり、多くの北海道ブランドを作り出す事がゴールである。道や農協等が連携して、付加価値のついた大量の食材、製品を道外や世界の大手企業に高く売り出すしくみを構築する必要がある。

「付加価値のついた道産品をどう産業に結びつけるか

西村 孝司

北海道の「健康を考える観光」拠点づくりを目指したイムノリゾート構想 サミットを契機にライフスタイルイノベーションを喚起する 北海道ヘルスツーリズム世界拠点の実現を!



「?」という問いかけは、「北海道の奇麗な大自然や健康に良い食材を今後いかに北海道観光の創造に繋げるか?」と同じ意味を持つ。「北海道は豊かな自然、温泉、食材があるから皆さんおいで!」という物見遊山型の観光振興ではも

う今の時代には通用しない。北大、石森教授がよく口にしているように、人々は今「観光」よりも「感幸」を求める。個人々人の観光ニーズが多様化し、短い期間でバスツアーで巡るよりも、一カ所でゆとり

郷を離れた限界集落が増え、地域格差問題が生じる。土地があっても田畑を耕す人がいなくなり、食料自給率が益々低下、食の確保を輸入に頼るため食の安心安全の問題にまで発展する。また、農村の人口

民医療費がパンク状態になっている。その対応策として2008年4月から、メタボリックシンドロームの特定検診が国の政策として義務づけられることになった。

これら先進国における多くの諸問題、聞いただけでも頭を抱えてしまうような問題であるが、ただ悩んで何もしなければ問題はさらに深刻化する。これらの問題解決は確かに難しい。しかし、諦めた段階でゲームセットで、もし解決できるとすれば、諦めず

に、思いを持った人々が英知を絞って何とか解決しよう、いや、解決できると信じて行動をおこすことしかない。これらの問題解決に観光はあまり関係ないように見えるが実は観光が解決策を導く1つの大きなツールになり得るのである。

食、健康、環境、医療の横断的な社会基盤構築に結びつき、国民のライフスタイルイノベーションを促す最も有効な手段となるであろう。多くの社会問題の解決に貢献できる北海道ヘルスツーリズムの世界拠点を近い将来実現する事を期待して「健康を考える観光」に関する小生の1年間の連載を終了したい。

※西村先生による誌上観光講座は今回で終了します。ご愛読ありがとうございます。

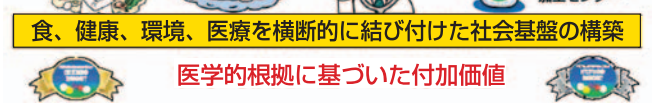
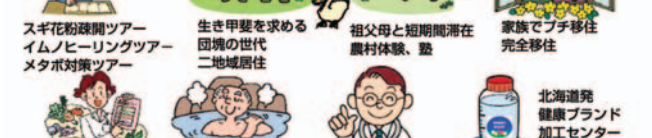


ミスあんどん (沼田町)
神田 真 弓さん
加藤 桃 子さん
福島 美穂 子さん



Miss and Don (倶知安町)
前田 紘 子さん
小池 幸 さん
佐々木 暁 子さん

ライフスタイルイノベーションを促す北海道ヘルスツーリズム拠点



食、健康、環境、医療を横断的に結び付けた社会基盤の構築 医学的根拠に基づいた付加価値

「?」という問いかけは、「北海道の奇麗な大自然や健康に良い食材を今後いかに北海道観光の創造に繋げるか?」と同じ意味を持つ。「北海道は豊かな自然、温泉、食材があるから皆さんおいで!」という物見遊山型の観光振興ではも

「?」という問いかけは、「北海道の奇麗な大自然や健康に良い食材を今後いかに北海道観光の創造に繋げるか?」と同じ意味を持つ。「北海道は豊かな自然、温泉、食材があるから皆さんおいで!」という物見遊山型の観光振興ではも

「?」という問いかけは、「北海道の奇麗な大自然や健康に良い食材を今後いかに北海道観光の創造に繋げるか?」と同じ意味を持つ。「北海道は豊かな自然、温泉、食材があるから皆さんおいで!」という物見遊山型の観光振興ではも

「?」という問いかけは、「北海道の奇麗な大自然や健康に良い食材を今後いかに北海道観光の創造に繋げるか?」と同じ意味を持つ。「北海道は豊かな自然、温泉、食材があるから皆さんおいで!」という物見遊山型の観光振興ではも

「?」という問いかけは、「北海道の奇麗な大自然や健康に良い食材を今後いかに北海道観光の創造に繋げるか?」と同じ意味を持つ。「北海道は豊かな自然、温泉、食材があるから皆さんおいで!」という物見遊山型の観光振興ではも

「?」という問いかけは、「北海道の奇麗な大自然や健康に良い食材を今後いかに北海道観光の創造に繋げるか?」と同じ意味を持つ。「北海道は豊かな自然、温泉、食材があるから皆さんおいで!」という物見遊山型の観光振興ではも

「?」という問いかけは、「北海道の奇麗な大自然や健康に良い食材を今後いかに北海道観光の創造に繋げるか?」と同じ意味を持つ。「北海道は豊かな自然、温泉、食材があるから皆さんおいで!」という物見遊山型の観光振興ではも

「?」という問いかけは、「北海道の奇麗な大自然や健康に良い食材を今後いかに北海道観光の創造に繋げるか?」と同じ意味を持つ。「北海道は豊かな自然、温泉、食材があるから皆さんおいで!」という物見遊山型の観光振興ではも

地域の取組 事業人

⑩ 洞爺湖町

「豊かな対話を実現する安全で静穏な環境」「近年の傾向に適合したコンパクトで効率的な開催」「環境重視の日本を世界にアピール」をコンセプトに2008年7月に開催される「北海道洞爺湖サミット」の開催地として内外の注目を集める洞爺湖町は、豊

かな自然(景観、温泉湖等)、迫力の火山(有珠山)、美味しい食材等(ホタテ、ジャガイモ、豆類・ヒメマス)、訪れる人を魅了するアイテム(カヌー・ホーストレッキング・エステ・中島自然散策等)が豊富な町です。

有珠山は、資料として残っているものでは、1663年以降2000年までに8回の噴火が記録されており、中でも1910年(明治43年)の噴火後に温泉が見えられ、この恩恵が現

在のマチの発展につながっています。ちなみに、この時の噴火が世界ではじめて火山性地震をとらえた噴火だとされています。

洞爺湖町では平成18年7月、NEDO(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)学官による実行委員会を設け、各種調査・基本設計を行い、その結果を受け、現在、洞爺湖町と洞爺湖

をを行うことにより、温泉資源の保護と省エネルギー化を図るものです。

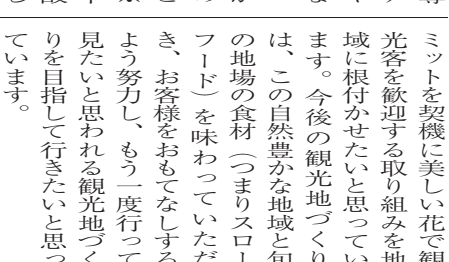
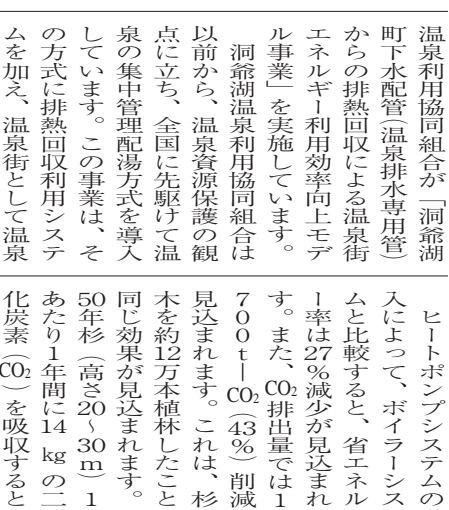
具体的には、エネルギー源の多様化として、温泉排水の持つエネルギーを高効率機器ヒートポンプで回収・利用し、省エネルギーと地球温暖化原因物質の一つである二酸化炭素ガスの削減を図っています。

今後の新たな取り組みとして、「北海道洞爺湖サミット」のテーマである環境問題に重点をおいた施策を取り上げ、その素材を今後の観光に結びつけて「環境観光」の推進を目指したいと考えています。そして、洞爺湖温泉の美しい景観、温泉、火山など豊かな自然環境の保全に配慮し、観光地として、「お客様のおもてなし」ができるよう、サミットを契機に美しい花で観光客を迎える取り組みを地域に根付かせたいと思っています。今後の観光地づくりは、この自然豊かな地域と旬の地場の食材(つまりスロロフード)を味わっていたら、お客様をおもてなしするよう努力し、もう一度行って見たいと思われる観光地づくりを目指して行きたいと思っています。

エネルギー利用効率向上モデル事業と「環境観光」の推進

温泉利用協同組合が「洞爺湖町下水配管(温泉排水専用管)からの排熱回収による温泉街エネルギー利用効率向上モデル事業」を実施しています。

洞爺湖温泉利用協同組合は以前から、温泉資源保護の観点に立ち、全国に先駆けて温泉の集中管理配湯方式を導入しています。この事業は、その方式に排熱回収利用システムを加え、温泉街として温泉の資源から排水まで一括管理



壮麗な洞爺湖(上)と湖畔の夕暮れ(下)

壮麗な洞爺湖(上)と湖畔の夕暮れ(下)